



「児童・生徒を中心に考える授業づくり」

～ “学び”の質を高める授業改善～

< 研究の柱 >

主体性を育む 授業づくり

- 学びの質を高める“発問”と“手立て”
- 授業をファシリテートする教師の“対応力”

指導方法の工夫 と授業改善

- 育成すべき資質・能力の理解
- 異校種間における系統性と指導方法の共有

ICT機器の 効果的な活用

- 学びを深める手段としての活用方法の追求
- 協働的な学びにつなげる活用方法の共有

「学びに向かう力」の醸成

【講師を招聘した授業研究会】

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善と研究会の工夫
- 「考え、議論する道徳」の追究

【異校種間における指導法の共有】

- 指導法と学びの系統性の共通理解
- 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた実態と指導方法の共有

【主な取り組み】

【児童・生徒と取組む授業づくり】

- 児童・生徒の姿と声に基づく研究協議と授業改善
- 学び合いによる授業づくり

【ICT機器活用の推進】

- ICT活用授業改善研修会の実施
- 支援員と連携した活用の促進
- 校外・校内でのオンライン交流

☆ 各校に招聘した講師紹介 ☆

授業改善アドバイザー：三浦 修一 氏 東京家政大学：石田 淳一 氏
 帝京平成大学：矢作 信行 氏 昭和女子大学：高木 くみ子 氏

研究推進校の取組み



大井小 ～子ども自らが問いをもち、学び合い、深め合う授業をめざして～

- “深め合う授業像”と“育成をめざす子ども像”の共有
- 充実した“学び合い”につなげる教師の効果的な価値づけ
- 子ども自らが“問い”をもち、“納得解”へとつながる授業づくり



相和小 ～児童一人一人が自ら問いを見出し、学び合いをとおして深める授業～

- 異学年交流の充実と異学年合同学習の実施
- “問い”の共通理解と“学び合いから深める”児童の具体的な姿の共有
- “インタビュータイム”を活用し、児童の視点に立った授業づくり



上大井小 ～学び合い、「できた」喜びを実感できる授業～

- “深い学び”につなげる授業展開と振り返り活動の充実
- “学び合い”の充実を図るための“話す力・聞く力”の向上
- “めあて”“学び合い”“振り返り”の視点を明確にした授業づくり



湘光中 ～聴いて、考えて、つなげる授業づくり～

- 単元を見通した系統性ある指導計画と“学び”の質を高める発問と課題設定
- 視点を明確にした“話を聴く姿勢”と“書く活動”の定着
- 根拠を持って自分の考えを説明する力の育成

< まとめ >

各校では、“問い”や“発問”を意識した授業づくりに継続して取り組むとともに、“深め合う”授業について研究を深めることができた。また、教職員間において、めざす授業像や子どもの姿について共通理解を図ることができているため、学校全体での組織的な研究推進に取り組んできているところである。引き続き、学習者を主体に考える授業改善に取り組んでいくことで、子どもたちの「学びに向かう力」の醸成につなげていく。また、異校種間の連携を一層充実をさせることで、子どもたちの実態把握を深め、「児童・生徒を中心に考える授業づくり」に努めていきたい。